

第1回・第2回ワーキング会議の結果まとめ

令和7年9月8日(月)
第3回ワーキング補足資料

回数	日時	意見交換のテーマ	形式
第1回	7月30日(水) 9:00~11:00	● 地域公共交通の現状と課題 (事務局で把握している事項) ● 公共交通の可能性 公共交通によって実現したいこと	ワークショップ形式 (テーブル3つに分けて意見交換)
第2回	8月19日(火) 14:00~16:00	● 公共交通の役割 公共交通によって実現したいこと ● 望ましい公共交通の姿	

テーブル	現状・問題点及び課題	公共交通の可能性・公共交通によって実現したいこと
庄原・総領	● 運転者不足の深刻化 ● 車両の維持に関わる費用負担の大きさ ● 介護サービス利用者の公共交通利用の困難さ ● 運転免許返納者の公共交通利用 ● 公共交通に関する情報のわかりにくさ ● 通院時間における需要の集中 ● 土日祝日の交通手段の不足 ● 乗り継ぎの不便さ、事業者間の連携不足 ● 公共交通以外の移動サービス(福祉・介護等)の人材不足	● 行ける時に希望通り運行してくれる乗り物 ● 病院、買い物と自宅の往復移動 ● 運転免許証返納後に公共交通を利用できる環境 ● デイサービスの帰りに買い物に行ける環境 ● 介護サービスでの公共交通の連携 ● にぎわいのための移動の目的を創造 ● 観光、呼び込み、受け入れ、魅力ある町、イベント等の実現 ● 地域の実情に応じた交通システムの構築 ● 介護タクシーの時間集中解消(時間別運賃設定) ● 乗り継ぎ時等の交通事業者間の連携強化
東城・西城	● 自家用車利用者の公共交通離れ ● 夜間の交通手段不足 ● 地域内移動の不便さ ● 交通手段に対する情報不足(情報にたどり着くのが困難な状況) ● バス停までの移動手段の不足 ● 地域間移動(東城・西城間)の需要不足 ● 運転者不足の深刻化	● 公共交通を使ってみたくなる仕組み ● 公共交通に乗って「楽しい」と思える体験創出 ● 地域に任せる仕組み、地域主体の公共交通を支える体制構築 ● 子どもの学びのスペースと交通拠点の連携 ● 夏・冬・春休み子どもが使いやすい交通 ● 公共交通を使った雇用促進 ● 若者を受け入れた交通の運営や人づくり ● 飲んでも帰られる交通の仕組み、夜間に使いやすい公共交通 ● 人口減少問題への対応、地域間の移動需要の創出 ● 観光客の宿泊場所への移動手段確保

テーブル	現状・問題点及び課題	公共交通の可能性・公共交通によって実現したいこと
高野・口和・比和	● 高校生が帰宅するための移動手段の不足 ● 地域の商店等の買い物環境の不足 ● 乗合タクシーの時間制約 ● 地域内交通に使える車両の不足 ● 土日祝日・休日の移動手段の不足 ● 高齢者のバス停までの移動の困難さ ● 運転者不足の深刻化	● 高校生が部活後でもバスを利用できる環境 ● 広域で移動できる環境(乗合タクシーの地域外への運行) ● 交通空白地有償運送の活用した移動環境整備 ● 夜間や土日の移動不便さの解消 ● 便利な時間、乗りやすい、早過ぎない、帰るのが楽な交通 ● 歩いて行くのが難しい人への支援、ドアツードア形態の拡充 ● 自分で買い物ができる、自分で商品を選べる環境 ● 地域経済への貢献に繋がる交通 ● バスの中で楽しめる「移動型サロン」 ● バスを活用した健康増進 ● 車両制約がなく利用できる環境 ● バスの小型化等の効率化 ● サブスク等の仕組みを活用した利用しやすい交通システム ● ITを活用した情報の見える化

テーブル	公共交通の役割・公共交通によって実現したいこと	望ましい公共交通の姿
庄原・総領	● デジタル技術活用した統合されたサービスの提供(鉄道、バス、タクシー) ● 地域交通のターミナル整備スクールバス、デイサービス車両の有効活用 ● 福祉・介護・医療分野の交通事業参入 ● 自宅近くまでの高齢者の送迎 ● 学生:通学での外出、移動手段提供 ● 夜間利用者:病弱者、旅行者、飲食店利用者 ● 健全経営のための利用増促進 ● 公共交通利用のきっかけ作り	● 面と線で支える仕組み(鉄道、バス、タクシー、介護・スクール送迎、地域住民)の構築 ● 「行きはバス、帰りはこまわりくん」等の地域内交通の上手な組み合わせによる運用 ● 買い物・通院が週1回～月1回は可能なサービス水準 ● 移動目的達成可能な交通手段確保 ● 運転者だけでなく、公共交通をまとめる人を確保 ● お出かけのコーディネート ● 介護タクシー等を活用した乗り合い輸送 ● 様々な分野のマンパワー共有による交通の運用 ● 「体験」の共有により、乗る不安が解消されている
東城・西城	● 広域連携連携可能な時間帯での鉄道・バスの運行 ● 広島市・福山市方面への移動手段の確保 ● 備後落合と東城間での新たな交通システム導入(BRT等) ● 歩道走行可能な移動車(シニアカー、電動カート)導入促進、軽ワゴン車の活用 ● 観光等で使えるJR駅と観光地(道後山、比婆山、熊野神社)を結ぶネットワーク構築 ● 他地域を知る移動の愉しみ創出 ● 自治振興センターで移動束ねる仕組み、自治振興センター・公民館の活用 ● 夜間における公共交通の運行 ● 児童・生徒の通学手段確保	● 自治振興センターに集まれば行きたい所に行ける ● 拠点に人を集め、中心部や市外に行けるの仕組み ● 助け合いによるコミュニティの形成 ● 自然に人が集まる拠点機能(自治振興センターを想定) ● 住民告知放送等を活用して情報発信が行き届いている ● 自家用車やスクールバスを活用した地域交通の構築 ● 学生・子どもの通学の足が確保されている ● 夜間における移動手段の提供(芸備線は19時半ごろが終便)

テーブル	公共交通の役割・公共交通によって実現したいこと	望ましい公共交通の姿
高野・口和・比和	● 道の駅来訪者(観光客)の高野地域中心部への誘導 ● 需要に応じた車両の適正化 ● 目的地までの移動時間の短縮(急行バス等) ● ドアツードアのサービス拡充 ● キャッシュレスカード「な・み・か」「ほ・ろ・か」を活用した利便性向上(行政・振興区イベントでのポイント付与等) ● 同じ目的での移動や同じ日の移動を束ねる ● 庄原・三次両方向への移動ニーズへの対応 ● 曜日別に偏りがある需要の調整 ● 地域交通の車両と人材の確保 ● 乗合タクシーの複数台車両確保 ● プロドライバーとボランティアドライバーの双方の活用 ● 福祉車両を活用した効率的な交通手段の運用	● 生徒の下校時間帯は30分間隔で運行している ● 通勤の退社時間にあわせて17時以降は数便が30分間隔で運行している ● 夜間は庄原中心部で飲食して24時まで帰宅ができる ● 月～土曜日の通院に対応し、土日も庄原市内に行ける交通が運行している(朝2便・昼2便程度) ● お盆期間も運行している ● 総領地域の「こまわりくん」のような地域が運営している交通を比和地域でも導入 ● 家の前まで来る、地域間を跨いで運行するデマンド型の交通 ● 医院・買い物先オープンまでの待ち時間に店舗内のスペースを活用できる ● ハブとなる拠点での住民同士のコミュニケーションが促進 ● 公共交通を待つ際はエアコン・椅子設置されている場所で快適に待てる ● スクールバスや宿泊施設送迎車、自家用車を活用して地域の交通を確保する ● 「ついで便」として自家用車に同乗できるようにする ● 荷客混載で荷物と乗客を一緒に輸送(道の駅たかの～ゆめさくら)